

この取り組みは、文部科学省が昨秋に「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」*下記概要参照 と称して全国の小中学校を対象に研究校を募り、審査を得て初めて実施できる取り組みです。申請の結果、来年度本校が国から指定を受けました。(県下で5校程度)「サキドリ事業」という名称の通り、現在、中央教育審議会で2030年改訂の新学習指導要領に向けて、論点整理がされていますが、その中で学校の実態や子どもの実情に合わせて柔軟な教育課程を編成することで、子ども達が、より生きて働く力を養うことができると結論付けています。2030年には全国のどこの学校でも展開されますが、少しでも未来を見据えた力が身につくように、基礎基本の学習は保証しつつ、これまでに岩小が特に注力してきた「こどもが選択できる主体的な学び」「生活科や総合的な学習を中心にした探究的な学び」「子ども同士のつながりを大切にした対話の時間」を今以上に充実させることもできるようになります。

教育課程柔軟化サキドリ研究校事業 概要

令和7年9月19日
教育課程企画特別部会
参考資料 2

趣旨

- 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂し、**一人一人の可能性を輝かせる柔軟な教育課程編成を促進**するため、中央教育審議会における次期学習指導要領に向けた検討において「**調整授業時数制度**」(※)の創設について検討中。全国の教育委員会や学校から、令和7年度から先行的に取り組んでいる研究開発学校と同様に、柔軟な教育課程の実施に取り組みたいとの声が多数寄せられている。
 - (※) **各学校の判断により、各教科の標準授業時数を調整して教育課程を編成することを可能とし、生み出した時数を他教科等や「裁量的な時間」に充当可能とするもの。**
- 柔軟な教育課程を編成・実施する上では、より一層、**各学校におけるカリキュラム・マネジメントや教育委員会等による伴走支援・指導助言が重要**となり、これらの知見の蓄積が、制度導入後の教育課程の質に直結することとなる。

- 「調整授業時数制度」の導入後、各学校が創意工夫ある教育課程を円滑に編成・実施することができるよう、**全国各地の教育委員会・学校が教育課程の柔軟化の具体や手法についてある程度のイメージを持ち、知見を蓄積できるよう後押しをする仕組み(教育課程柔軟化サキドリ研究校事業)を創設。**

※本事業は、研究開発学校制度の下での教育課程の柔軟化の主な先行事例及び現行の授業時数特例校制度を念頭に置きつつ、「調整授業時数制度」の導入に先立って、まずは一定の範囲での教育課程柔軟化の試行事例を全国各地に生み出そうとするものである。実際の「調整授業時数制度」の制度設計は今後中央教育審議会において検討されるものであり、本事業とは同一の仕組みとはならない可能性があることを前提とする。

事業概要

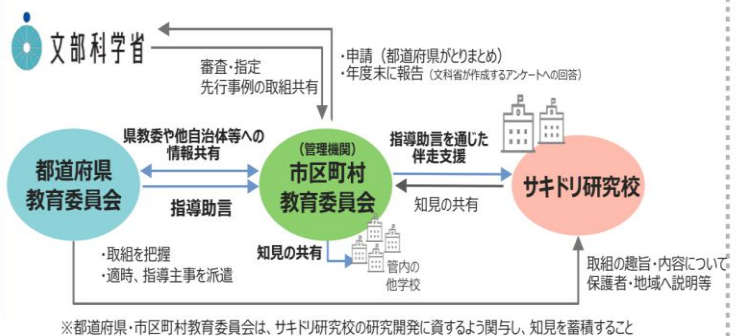
- 「調整授業時数制度」導入後の全国における円滑な制度実施に向け、研究開発学校とは別に、「**調整授業時数制度**」を先取りするような形で**教育課程を編成・実施し、研究開発を行うことができる学校(サキドリ研究校)**を文部科学大臣が指定する。

サキドリ研究校事業における教育課程の特例の内容

サキドリ研究校においては、先行事例を踏まえ、**調整授業時数は対象教科等(※1)ごとに10%程度を上限**とし、使途として以下に活用可能とする。その際、①～③にどのように活用するのかについては教育委員会、学校が子供や地域の状況を踏まえて判断することとする。

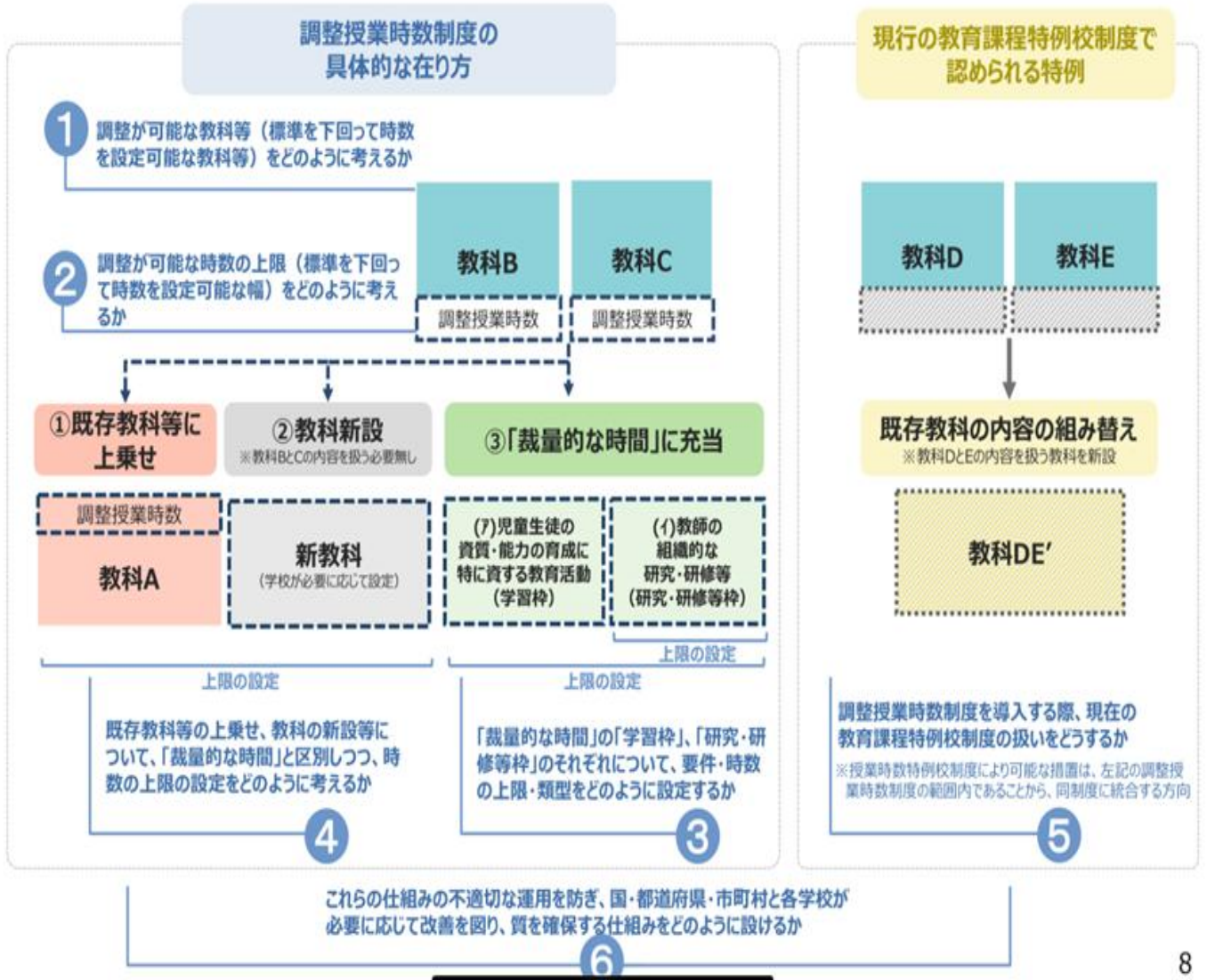
- ① 既存の各教科等への上乗せ
- ② 教科の新設
- ③ 裁量的な時間 (ア)子供の資質・能力の育成に特に資する教育活動(※2)
(イ)教師の組織的な研究・研修等

- ※1 年間35単位時間以下を標準としている教科等は、**対象外**
- ※2 標準授業時数が設定されていない学校行事や児童会・生徒会活動は含まれない
- ※3 ①②合わせて30コマ程度まで、③(ア)と(イ)それぞれ30コマ程度まで



先程も述べた通り、下記の表にあるように削減可能教科(週1回の教科は除外)から一律に調整授業時数を捻出するのではなく、各教科の教育課程を見直し、教科の中では、子どもの実態に合わせて単元時間数を増減したり、違う教科でも関連があるなら学習を合科したりすることで、学習指導要領に定められている学ぶべきことはしっかりおさえながら調整時間を生み出します。来年度の新設教科は考えておりませんが、調整時間を生活科や総合的な学習の時間に上乗せすることや児童の資質向上に費やす探究・対話の時間数も時程にしっかり明記して取り組んでいきます。また、教員が研修や教材や授業内容を熟知する時間を確保することで、より児童にとって分かりやすい授業づくりを進めることができます。

調整授業時数制度に関し検討が必要な事項の全体像



これらを実効性のあるものにしていくには、教科の時数やカリキュラムの再編だけでなく、それらに伴い、1 授業の時間や週時程の変更も子どもたちが主体的に学ぶために変更しました。本校の学校改革推進委員会や芦屋市教育委員会を中心に議論した結果以下のような週時程で4月から実施します。

★昨年度からの変更点

- ① 授業時間
(旧) 45分授業 → (新) 40分授業
- ② 授業割
(旧) 午前4コマ 午後2コマ → (新) 午前5コマ 午後1コマ+20分(週2回)
- ③ 給食開始
(旧) 12:15 → (新) 12:30
- ④ 始業時間
(旧) 8:30 → (新) 8:25
- ⑤ 終業時間



学年によって違いますので、下表「週時程(案)」でご確認ください。

2026岩園小学校時程表

	月	火	水	木	金
8:10~8:20	登校				
8:25~8:35	朝の会				
1 8:35~9:15	1	2	3	4	5
2 9:20~10:00	6	7	8	9	10
3 10:05~10:45	11	12	13	14	15
10:45~11:05	中休み(20分)				
4 11:05~11:45	16	17	18	19	20
5 11:50~12:30	21	22	23	24	25
		1年対話タイム (25分)	1年2年探究タイム (25分)		
12:30~13:15	給食				
13:20~13:30	そうじ・ペアタイム				
13:30~13:50	昼休み(20分)				
6 13:50~14:30	26	27	28		29
	委員会・クラブ 14:00~14:40				
		対話タイム 14:30~14:55(25分)	探究タイム 14:30~14:55(25分)		
下校(1年)	13:45	13:45	13:45	13:45	13:45
下校(2年)	13:45	15:10	13:45	13:45	13:45
下校(3年)	14:45	15:10	15:10	13:45	13:45
下校(4~6年)	14:45	15:10	15:10	13:45	14:45
委員会の日(3,4年)	13:45				
クラブの日(3年)					

※給食なしの日は4校時まで行き、12:00下校とする。

※始業式、終業式の日は3校時まで行き、11:00下校とする。

サキドリ事業Q&A

Q1 週時程に「対話タイム」「探究タイム」とありましたが、どんな学習ですか？

A1 本来学びとは与えられるものではなく、自身が獲得していく新たな出会いであり、気づきです。探究タイムでは教科や総合の学習でもう少し突き詰めた内容を個別または複数で学んでいく時間です。一方、対話タイムは、コミュニケーション能力を養い、人との接し方や関係をどう作っていくかを学んでいく時間です。

Q2 授業時間が少なくなっているのではないですか？

A2 子どもの学習時間が減っているように見えますが、現行では、給食開始・終了日、個人懇談会、大きな研修や会議がある時は5、6時間目をカットしていました。午前中に5時間目まで実施することで、裁量の時間を教職員の資質向上に費やしても大幅に児童が学習する時間が減ることはありません。むしろ、低学年は学習時間が増えています。

Q3 放課後の時間が少し増えたのでダラダラ家で過ごさないか心配です。

A3 自分でしっかり計画を立てて放課後の時間を有意義使うことは、自立への一歩です。学校でも放課後の過ごし方は子どもたち自ら有意義に過ごせるような働きかけや考える場を設定しますが、これを保護者の方には前向きに捉えてほしいです。一方で、手立ても必要ですので、放課後の時間を活用して学校の教育活動ではできない体験活動をキッズスクエア、コミスク、ボランティア団体等も模索中です。また、学童やキッズスクエアは、学校とも連携していますので、今の時間よりも早くからの受け入れも許可が出ています。中学校でも部活動が廃止され、放課後の過ごし方は各家庭の判断という方向に見直されています。学校だけで子どもたちの学びをつくっていくのではなく、地域・家庭とも連携しながら皆さんで子どもたちを育てていくモデルケースとして行政のバックアップも受けておりますので安心ください。

Q4 新しい試みなので、一番の心配は学力の低下です。

A4 これからの時代は、目に見える知識理解よりむしろ学びに向かう姿勢や思考判断、非認知能力の育成が重要になってきます。サキドリ事業では、裁量の時間を活用しながらそういう力を養うことに今以上に時間をかけて取り組みます。学習への意欲は学びに良い影響が出ることはエビデンスが取れているので、いわゆる既存の目に見える学力にも有効だと思われま。

Q5 サキドリ事業の効果・検証はいつ行われるのですか？

A5 サキドリ事業の効果については、今年が初年度ですので、1年を通して実施してみて学校評価等による効果や改善点があがってくると思われま。ただし、サキドリ事業が目指している子どもたち主体の学びの検証については、芦屋市が学びの指標としてScTN（スクタン）を2年前から取り入れ、3年生以上に学期に1回実施しています。児童生徒による自己評価型の質問により、成長の実感（授業+生活）と学校生活の充実感をグラフ化します。それをもとに今後の授業改善やより効果的な子ども達への働きかけを行っています。また、その変化はもちろん、数値に表れない子どもの実態にも十分注視していきたいと思われま。